

子、滑車、スチールワイヤー、マニラロープ、アースターミナル、(以上所要數量)

一、取付工事用品

アルコール、ワセリン、メタルポリシユ、十六番鉛被ゴム線、十八番七ク撚鉛被ゴム線、電話可繞接續線、レセブ
テークル、ベスト、エメリークロース、眞鍮バンド、錫鐵棒、眞鍮木捻子、白古拭巾、ゴムテープ、綿テープ、
三Aヒユース、一〇Aヒユーズ(以上所要數量)

一、備付小道具及消耗品

十八番七ク撚錫鍍硬銅線アンテナ碍子、大型油差、マイカリレグ、掃除用刷毛、アルコールランプ、ベスト、ア
ルコール、エメリークロース、モーター油、錫鐵棒、ゴムテープ、綿テープ、三Aヒユース、一〇Aヒユース、捻
子廻、自轉車スパナ、ピンセツト、六吋半ヤスリ、七吋ベンチ、又捻子廻(以上數量省記)

鯉餌料鯉漁業試験

試験趣旨 發動機船ニ革マリタル鯉釣漁業ハ帆船時代ニ比シ餌鯉ノ需用ヲ著ルシク増加セルヲ以テ之ニ應スルタメ
大正元年ヨリ本試験ニ着手シ焚入八田網ニヨリ同三年ヨリハ改良揚繰網ヲ用ヒテ逐年ノ成績ニヨリ新漁場トシテハ既
ニ片浦灣出水郡沿岸ノ開發ニ努メ鹿兒島灣ノ漁業モ揚繰網漁法ハ灣口附近ニ於テ在來八田網ニ比シ良好ノ成績ヲ示シ
全体ニ於ケル餌鯉供給量ノ増加モ漸次達成セラレツ、アルヲ以テ本年度ハ前年ニ同シク春夏鹿兒島灣口ニ於テ改良揚
繰網ノ貸與試験ヲ爲シ本年ヲ以テ試験ヲ終了スルコト、セリ。

試験方法 春期試験ニ供用セル揚繰網ハ前年同様全部二十三節乃至十八節ノモノニシテ魚取部三十八反翼網部三十
七反トシ浮子方全長百五十五尋沈子方百七十七尋トシ夜間ハ集魚燈ニヨリ集魚網獲シ月明時集魚燈ニ由ル漁獲困難ナ

ル場合ハ晝間覗水器ニヨリ海底ニ群潜スル魚群ヲ搜索圍繞ス。

被貸與者ハ揖宿郡喜入村上久保庄次郎ニシテ同人ハ漁夫漁船集魚燈ヲ提供シ本場ハ前記揚線網ヲ貸與シ主任者一名ヲ派遣シ一切ノ指導監督ヲ爲シ漁獲高ノ二割ヲ漁具貸與料トシ收入スルコトセリ。

試験經過成績

十一年四月二十四日準備ヲ了ヘ同二十六日灣口知林島南ニテ「タレ」潤目交リ十籠ヲ漁獲セルヲ初漁トシ引續キ同方面ニテ六月七日迄通計四十六日間從漁シ内月明時荒天ヲ除キ二十四回出漁シ餌鯧百七十五籠其他死魚六千五百六十二斤總價格二千六百六十三圓五十二錢ヲ得本場ハ貸與料金四百二十八圓余ヲ收入セリ總漁獲ヲ前年同期ニ比スレバ五十五籠金千三百圓ノ増獲トナレリ。

本春ノ鯧群ハ例年ニ此シ薄漁ナルニ非ス五月中ハ殊ニ魚群多ク漁獲多カリシモ偶鯉漁況不振ノタメ餌價低落シ其影響ヲ受ケタルコト多ク且試験開始ニ當リ被貸與者漁夫雇入ニ日子ヲ費シ着手後レ僅カニ二週間丈從漁シ終ニ終季トナルタメ著ルシク期間ヲ短縮シヨリ以上ノ多獲ヲ爲スヲ得サリシモノニテ之ヲ同期間ニ行ハレタル八田網ノ漁獲ニ比スレハ概シテ本網ノ能率大ナルコトヲ示セリ。

今茲ニ本試験ヲ終結スルニ當リ從來使用セル揚線網ニ付其結果ヲ綜合記述センニ本網ノ能力ハ比較的上層海面ニ群游スルモノ又ハ特殊ノ誘導法ニ由リ魚群ヲ表層ニ誘致シ得ルモノ否ラザレバ本網ノ下垂到達スル淺海ニ魚群ヲ圍繞漁獲スルモノナルヲ以テ濁リ餌鯧漁獲ニ適スルノミナラズ其他如上魚群ノ捕獲ニ對シテモ適スルカユヘ餌鯧漁獲ニ對スル實驗ハ推シテ應用スヘキモノ尠カラザルナリ。

一、海深ト網ノ長幅

網ノ總長ハ魚群ヲ完全ニ圍繞シ漁獲ノ第一歩ヲ占ムベキ重要事項ニシテ漁夫ノ技術如何ニヨリ多少長短ヲ異ニスベキモ魚群ノ活動狀態ニヨリ決定スルヲ主トシ小鯧類ノ如キ繊細不敏ナル魚群ニ對シテハ本網ノ如キ浮子方百五十五尋程

度ノモノニテ可ナリ之ハ夜間集魚燈ニ由リ魚群ヲ誘集漁獲スル方法ニ基クモ晝間視水器ニヨリ海底ニ潜伏セルモノ及海面群游ノモノヲ漁獲スル場合ハ稍ヤ長キヲ可トスルモ其最大範圍ハ二百尋以下タラシムベキナリ集魚燈ニ依ル場合漁夫ノ技倆熟達スルトキ前記百五十五尋ヨリ縮少スルノ餓地アランモ百尋以下トスルハ不適當ナリ。

網ノ深サハ大体ニ於テ長サニ参照シテ決定スルヲ要ス從來試驗ノ海區ニ於テハ最淺四尋ヨリ最深四十二尋主トシテ三十五尋乃至十尋深サノ漁場ニ使用シテ適應性ヲ發揮セルヨリ考フル時ハ本網ノ如ク魚取部二十三節目三十八反重程度ノモノニテ差支ナキモノ、如シ。

縣内漁場トシテハ川邊郡片浦灣出水郡内海方面揖宿郡指宿沿岸等ハ比較的淺海漁場多ク肝屬郡内灣沿岸、出水郡外海方面ハ稍々深海漁場ニ屬スルモ如上ノ深度ヲ越ユルモノハ少キヲ以テ操業上ノ利便ハ却テ此ノ程度ノモノヲ恰好トスルガ如シ。

二、浮子ト沈子トノ關係

漁具ノ浮泛カト沈降カトハ常ニ適度ノ均衡ヲ保タシムルヲ要スルモノニテ網地ハ水中ニ於テ沈降力ニ富ムヲ以テ適當ノ水位ニ漁具ヲ位置セシムルニハ之レニ浮力ヲ附セザル可カラズ所要ノ形狀ト水位ヲ保タシムルヲ最小限度トシ其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ強弱ヲ調整スベキモノニテ本網ノ如キ細節目ヲ多量ニ使用スルモノニ於テハ浮力大ナルト共ニ沈降力モ増大スルヲ要ス。

イ、浮力ヲ大ニスル理由

- 一、漁網ニ綿糸細節目ヲ多量ニ使用スルコト。
- 二、潮流ヲ受クルコト大ニシテ之ガ爲メ橫壓力ヲ増スコト。
- 三、魚群濃厚ニシテ圍繞後之ガ潜逸ヲ企テ橫壓沈降力ヲ作ルコト。

四、漁具使用法ニ於テ本網ノ如ク投網後直チニ網裾部(沈子方)ヲ締結スルヲ要スルモノハ海水ノ抵抗大ニシテ特ニ淺海ニ於テ甚ダシク浮子方ヲ下方ニ曳クカトナルコト。

ロ、沈降力ヲ大ニスル理由

一、潮流早キ場所 投網ノ位置ニ於テ沈降ヲ迅速ナラシムルコト。

二、魚群濃厚ナル場合沈子方ノ浮上ヲ防ギ網ノ深サヲ保タシムルタメ。

三、網地細節目多ク海水ノ抵抗大ニシテ沈降遅キヲ防グタメ。

四、漁具使用法ニヨル網裾締結作業ノタメ沈子部ノ浮上ヲ防グタメ。

如上ノ理由ニ基キ從來使用セラレタル本網ノ浮力ハ桐製浮子長七寸幅二寸五分厚二寸五分ノモノ魚取部及吹出部一尋ニ付六枚其他ハ四枚トシ沈子ハ鉛製壹個重量三十五匁ノモノ魚取部及吹出部一尋ニ付拾貳個乃至拾參個其ノ他ハ八個トセリ。

三、網地ノ配置

本網ハ從來八田網ニ比シ規模極メテ大ニシテ網地ノ總長八千五百尋以上ニ及ビ從ツテ之ガ維持上困難多キヲ以テ使用及保管上充分ノ注意ヲ拂ハザルベカラズ從ツテ漁具構成ニ當リ他日補修ニ際シ經濟ト輕便ヲ考慮シ置ク必要アリ殊ニ現今ノ如ク勞銀低廉ナラザル時代ニ於テハ可及的細小ナル網地ヲ點綴配置シ使用時ノ補修ヲ容易ナラシムル方、長大ナル網地ノ一部ノ破損ヲ逐一修理使用スルヨリモ遙カニ利便ナル場合多キモノアリ殊ニ從來ノ如ク耐久本位ニ網地ノ修理没頭シ單ニ使用年數ノ長キヲ以テ一概ニ經濟的ナルガ如ク思考スルハ妥當ナラズ寧ロ本網ノ如ク大量ナルモノハ操作ノ輕便ト取扱ノ簡易ニシテ却ツテ經濟的ナル無節ノ網地ノ使用ヲ以テ此レニ換フルモノ一得ナラン。

四、漁夫ノ技術ト使網法

漁夫ノ技術如何ハ何レノ漁法ニ於テモ最も大切ナル問題ニシテ漁撈法ノ成敗一ニ此レガ熟否ニ懸ルト稱スルモ過言ニアラズ特ニ本網ノ如ク大規模ニシテ多數ノ漁夫ヲ要スルモノハ漁夫ノ行爲ハ恰モ四肢ノ動作ノ如ク整調敏活ナラザレバ決シテ成果ヲ期シ難キモノナレバ常ニ是ガ技術ノ熟達ヲ計ラザルベカラズ一面能ク漁具ノ能力ト由來スル處ヲ熟知セシメ相俟テテ初メテ効果ヲ奏スベキモノナリ本網ノ兩翼部ニ特ニ最高部(吹出ト稱ス)ヲ設ケタルハ魚群圍繞後中央魚取部ニ衝突シ逆行シ來ル魚群ガ網船ノ下方ヨリ潜逸セントスルヲ防グト共ニ漸次環網締結ノ進行ト共ニ一時魚群ヲ此處ニ滞在セシムル爲メニ設ケラレタルモノニシテ高サヲ必要トスルト共ニ袋狀ヲ形作セシムル様心得ベキモノナリ施網ノ廣狹過不足アルガ如キ動作ハ何等ノ効果ナキ場合多キモノナリ次ギニ淺海部ニ於テハ環網締結ニ當リ往々網裾纏絡シ網地ヲ破損スルノミナラズ全ク作業不能ナラシムルコトアリ之レ投網ニ際シ沈子ト環トハ個々ニ分離シ一ハ他ノ内側ニ分離投入スルト共ニ環網ノ引出シヲ敏捷ニ行ク如ク作業スルヲ要スルモ往々沈子及環トハ最初ヨリ一塊トシテ舷側ヨリ垂下スルガ如ク投入スルニ因ルモノ、如シ其ノ他使用上注意スベキ点多キモ要ハ漁夫技術ノ熟練ヲ主トスベキモノナレバ常ニ此レガ向上ニ付考慮スルヲ要ス尙現在使用セラル、餌鱸漁業ノ双壁タル八田網トノ利害得失ヲ比較考量シ當事者ノ參考ニ資セン。

揚繰網ト從來八田網トノ比較

(一)、設備ト組織

揚 繰 網

- 一、規模大ニシテ漁獲能力大ナルモ新設費大ナリ
- 二、漁夫ヲ多數要ス(四十名)以上經費大ナリ
- 三、漁船數 網船二隻 火船二隻 籠船一隻

八 田 網

- 一、規模小ニシテ漁獲能力小ニシテ新設費小ナリ
- 二、漁夫少數三十名以下ニテヨク從ツテ經費小ナリ
- 三、網船二隻 火船二隻 籠船一隻

四、網船 稍々大型ヲ要ス

(二) 漁法ト漁場

一、漁群ヲ圍繞シテ漁獲ス

二、隨所ニ魚群ヲ追及圍繞シテ漁獲ス

三、潮流迅キ漁場ニテモ使用シ得

四、海底砂泥質ナルカ深海ニテ使用スルニ適シ

五、魚群ヲ必ラズシモ誘導スルニ非ラザレバ漁獲不能

ナラズ

六、梅雨期又ハ盛夏ノ使用ハ網具全損ノ程度大ナル爲

メ有利ナラズ

以上ノ如ク改良揚繰網ト在來八田網ニ關シテハ自ラ一得一失アルモ概ネ本縣餌鯧漁場トシテハ兩者ノ使用ニ適當ナルヲ以テ兩者相背馳スルモノニアラズ一ニ漁業經營上經濟的基礎ニ立脚スル場合ハ兩者ノ併者ニヨルヲ萬全ノ方法ト認メ即チ春季盛漁期ニ於テハ適々鯧漁業ノ最盛期ニヨリ需要尤モ旺盛ノ時季ナルヲ以テ揚繰網ニヨリ大量收穫ヲ計リ梅雨期ヨリ夏期ニ亘リテハ需要閑漫ナルヲ以テ漁網全損ノ程度小ナル八田網ニヨリ供給ヲ調節スルヲ可トス而シテ揚繰網ノ春季事業ノ開始ハ連年試験ノ經驗ニ照シ更ニ一閘間早メ二月ヨリトシ全漁ヲ通シテ四閘間ニ延長スル事ハ極メテ有利ナルモノト認メラル。

四、稍々小型ナリ

一、漁群ヲ抄獲ス

二、一定ノ敷設場以外ニテ任意ニ漁獲シ得ザルコト

三、潮流迅キ漁場程使用困難ナリ

四、海底砂泥質ハ勿論礫石質ニテモ良ク淺海ニ適ス

五、漁群ヲ特殊ノ方法ニヨリ網上ニ誘導スルカ會々網上

ニ魚群來ルニ非ラザレバ漁獲スルヲ得ズ

六、同上ノ期節ニ於テモ全損ノ程度小ナル爲メ有利ナリ

鯉餌鱸揚繰網貸與試驗漁業表

大正十一年

四〇

月日	天候	試驗場所	從漁時間	使網回数	表面水温	潮向速	種類	獲量	價格	記	事
四月十九日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	漁業準備	
四月二十日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十一日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十二日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十三日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十四日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十五日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十六日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十七日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十八日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月二十九日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
四月三十日	晴南	田貫沖	自前至	一	北	北	タレクチ	一籠	一八、〇〇	同	
五月一日	晴東	摺濱沖	クク前	一	北	北	マイワシ	九	一八、〇〇	海水透明度十一尋使網水深二十四尋	
五月二日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月三日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月四日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月五日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月六日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月七日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月八日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月九日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十一日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十二日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十三日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十四日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十五日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十六日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十七日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十八日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月十九日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十一日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十二日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十三日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十四日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十五日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十六日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十七日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十八日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月二十九日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月三十日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	
五月三十一日	晴東	笠瀬沖	クク前	一	北	北	ウルクチ	二	二〇、〇〇	透明度九尋半	

海水混濁火付連レ魚群ハ密集ス
下層十尋水温二〇、三
使網水深二十四尋

イカノ火付多シ

海水透明度十一尋使網水深二十四尋

透明度九尋半

荒天休漁

荒天休漁

摺濱ヨリ出漁
海水混濁夜光虫多ク魚群濃厚ナラス

同

同

同

同

同

同

同

同

鯉餌料飼養業試験

日	五	六	七	八	九	自十九日	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九
曇南東二	曇西四	霧北西一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一	曇南一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前	クク前
四、五〇〇	二、四〇〇	五、一四〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三、七、南々四綫	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急	三、三、南急
死イ ア シ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七	二、五〇〇 斤七
二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
荒天山川休泊	火付良好	荒天休流	下層十尋水溫 二〇、七比重 同十八尋ク 二〇、五ク	網手入其他ノタメ休流	イカ火付多シ使網水深三十尋	多少火付ヲ見タルモ漁獲ナシ 下層十尋ノ水溫 二一、四透明度六尋 火付不長漁獲ナシ	下層十尋水溫 二一、三	荒天山川休泊								

三十日	曇北	一	洲鼻沖	至前 至前	二〇〇〇 一〇〇〇	一	三、五	北	緩	死	鯷	四五斤	三、五	火付良好ナリシモ濃網切斷ノタメ魚群ヲ逸ス
三十一日	雨曇北	三	同	ク前	五〇〇〇	一	三、五	同	同	同	同	同	同	強風ノタメ使網充分ナラス漁獲ナシ
六月一日	晴北	四	同	ク前	〇、三七	一	三、〇	同	同	同	同	同	同	
二日	晴北	一	多良沖	ク前	六、〇〇〇	一	三、七			タレクチ		一五	100.00	
三日	曇雨北	四	洲鼻沖	ク前		一	三、〇			マイワシ		一〇	八五、〇〇	網縫糸切斷魚群ヲ逸ス
四日	晴北	一	同	ク前	一、四五	一	三、〇	南	緩	同	同	九	四〇、〇〇	
五日	曇東	一	同	至前	五、〇〇〇	一				死	鯷	三七斤	三、八	
六日	曇東	二	同	ク前	五、〇〇〇	一				同	カ	一七五	一四、九	
七日				ク前	五、〇〇〇	一				死	魚	六、五三	二六、五	本日以テ試験終了

鮪延縄漁業試験

試験趣旨 薩南海面ニ於ケル沖合漁業開發ノタメ明治四十四年種子島南東三十湊ノ範圍ニテ大鮪延縄漁業試験ヲ創始シ爾來試験ノ進行ニツレ漁業ノ價値明カトナリ從業船増加シツ、アルヲ以テ近年ニ至リテハ更ニ南方ニ漁場ヲ擴張セントシ大正九年度ハ大島郡東海岸ニ同十年度ハ屋久島南新會根ニ試験シ新漁場ノ端緒ヲ拓ケルモ試験船竹島丸船齡進ミ遠航ニ堪ヘサルヲ以テ本年ハ夫等南方漁場ニ出ル能ハス種子島漁場ニ於テ試験シ新漁場ニ對シテハ新船ノ竣成ヲ

待ツコト、セリ。

試験經過成績

試験船ハ竹島丸（十九噸三十馬力）ニ船長以下十二名主任者一名乗組ミ漁具ハ一鉢二百四十尋枝繩九本付ノ延繩三十鉢ヲ準備シ昨年同様枝繩ニハ「ワイヤー」付ノモノヲ混用シ十一年十一月九日鹿兒島港發山川港ニテ餌料其他ノ準備ヲ終リ十八日熊野浦沖ニ第一回ノ出漁ヲナシ當時水溫表面二三、五ニシテ海況好適シ距岸十七哩附近ニテ鯨ヲ餌トシ目鉢四、黃肌一尾ヲ漁獲シタル後強西風ノ連吹トナリ且新船照洋丸回航ノタメ乗組員交替ヲ要セシ等同月中ハ終ニ出漁ノ機ナク十二月ハ上旬二回出漁中旬ヨリ天候收マリ出漁ノ機會多ク鮪群ノ回游モ多ク好漁獲アリ月末ニ近キ漁況衰へ一月ハ事故ノタメ中旬迄鹿兒島港滯泊下旬再ビ出漁シ漁獲ヲ見ルモ前月ニ及バズ新船ニ由ル次季漁業試験モ切迫セルタメ同月末ニテ試験ヲ終了セリ。

試験期間ハ前後ヲ通シ八十六日ニシテ出漁回數十七回鮪四十八尾旗魚二尾其他鱈等ヲ合シ價格一千三百三十八圓ヲ得前年ニ比シ鮪三十七價格千餘圓ヲ增收セリ尤モ前年ハ殊ニ不漁ナリシニ由ルモノニシテ本年ノ漁獲トシテハ漁季中前後二回事故ノタメ出漁ヲ中止セルユへ前記漁獲ニ過ギザルモ本年ハ大正九十兩年本漁場ノ不漁ナリシニ反シ魚群多ク十一月中ハ民間漁船ハ相當ニ活動シ縣外大型船ハ最高六七千圓以上縣内小型船モ最高二千五百圓ノ漁獲ヲ爲セルモノアリ殊ニ十二月中秋刀魚ノ産卵盛ンニシテ鮪ノ飛躍多カリシハ數年見サルトコロナリシ一月ニ入りテハ從漁船ヲ減セルモノ「トンボ」黃肌ノ漁獲アリ概シテ各船共好結果ヲ見タリ。

鮪漁業ト水溫比重ノ關係ハ密接ナルモノアルコトハ累年其事實ニ基キ記述スルトコロナルカ本年種子島漁場ニ於ケル各月ノ表層水溫比重ハ

十一月中 水溫 二三、五

十二月中 水溫 二〇、四乃至二三、〇 比重 二五四乃至二六八

一月中 水溫 二〇、五乃至二一、五 比重 二五九乃至二六六

ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ水溫ハ十二、一月ハ本年ハ稍ヤ高ク比重モ同様ノ傾向ヲ有シ之ヲ漁業ヨリ見レハ本年ハ適當ノ海況ナリシコトヲ示セリ根據港熊野ヨリ南東針路ニ於テ一定ノ距離ヲ置ケル位置ノ水溫觀測ハ十二、一月中之ヲ爲セルニ

調査日	熊野港ヨリ 南東一哩	全 七哩	全 十三哩	全 十九哩	全 二十二哩	全 三十哩
十二月二十六日	二〇、四	二〇、〇	一九、八	二〇、〇	二一、七	
一月二十日	一九、六	二〇、二	二〇、六	二〇、六	二〇、六	
一月二十九日		一九、五	一九、八	二〇、七	二〇、七	二〇、八
比重	二六一	二五九	二六二	二六五	二六六	

前表ノ如ク十二月二十六日ハ距岸十三哩ノ点ニ低溫ヲ見稍ヤ變潮ノ部分アリタルモ一月二十日ハ陸岸ニ近キトコロハ海水ノ北流ヲ見ルモ其沖合ハ全部南流シ又同二十九日ハ距岸十哩内外ノトコロニ錯雜流アルモ其他ハ北流シ此期間概シテ變潮ノ著ルシキモノヲ見サリシナリ。

鮪ノ種類ハ目鉢多ク黑鮪モ十二月中ニ漁獲ヲ見、黄肌少ク又「トンボ」鮪ハ漁季末ニ現ハレタル等從來好漁獲アル年柄ノ種類ト一致セリ。

漁場範圍ハ累年事業報告ニ記スルトコロヲ綜合セハ自ラ明カナルモ熊野浦ヨリ正東以南南々東ニ至ル距岸二十三十哩ヲ主トシ相當漁獲ヲ收メツ、アルモ此海區ニ於テ種子島ノ方向ニ沿ヒ南ヨリ北ニ流ル、高溫水ト北ヨリ南ニ流ル、低溫水カ年ニヨリ互ニ消長スルタメ其關係ニヨリ前海區ノ南又ハ北ニ延ヒ漁業スルヲ可トスル場合アリ就中低溫水ハ鮪ノ

游泳少ク且其水帯ニハ河豚ノ游泳多ク鮪釣鉤ニ附セル餌ヲ奪食スルタメ漁業ニ適セス常ニ此水帯ヲ避ケ漁業スルヲ必要トス而シテ熊野港ヨリ沖合ニ三十湮迄ヲ主トセルハ船体及根據地ノ關係ヨリ制限セラル、モノニシテ夫ヨリ沖合ノ海水状態ハ寧ロ低温水ノ影響少キガユヘ船体ノ改良ト共ニ漁況ニ應シテハ遠航漁業スルコトヲ可トス本年ノ漁業ニ於テ油津ヲ根據トセル同地方漁船ハ本縣漁船ノ沖側ニ漁業シ好績ヲ收メタル實例ヨリ之等ハ尙研究ノ餘地アルモノト見ルヘシ。

枝繩ニ「ワイヤー」ヲ用フルハ鱈ニ嚙切ラル、コトナキノミナラス鮪モ概シテ此鉤ニカ、ルモノ多ク好結果ナリ。

餌料ハ本年ハ柔魚ノ漁獲ナキタメ潤目鰻鯨真鰻等ヲ使用セルカ此三種中ニテハ潤目鰻ハ頭部脱落シ易ク鯨ハ鮮色ヲ失ヒ易キ欠点アリテ真鰻最モ良好ナリシ。

鮪延繩漁業表

大正十一年 竹島丸

月 日	天候 風向力	漁場 符號	漁具 使用時	漁具 使用數	表面 水温	表面 比重	潮流 向速	餌料 種類	漁獲 種類	獲 數量	平均 重量	物 價格	摘 要
十一月 九日													試驗準備ヲ終ヘ午后三時半鹿兒島發夕刻 山川入泊
自十二 日至十三 日													荒天山川休泊
自十四 日至十七 日													前七時山川出帆熊野ヘ向フ途中餌料購入 ノタメ川尻ヘ寄港シ夕刻熊野入泊
自十八 日至十九 日													荒天熊野休泊
十九日													前八時二十分熊野發全十一時流揚着從流 后七時二十分終了油津ニ向フ
													前六時油津入港漁獲物ヲ賣却ス后熊野ヘ 向ク全所出帆后十時四五分熊野入泊

十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	十一月十二日	卅日	廿九日	自廿二日至廿八日	廿一日	廿日
C W 4										C NW. 4					
ハ										ロ					
自前十一時五分 至后二時										自正四時 至后四時					
三										三					
三三八										三三〇					
三六八										三三〇					
北東急															
イロシカ															
メバチ キリダ										キワダ メバチ カシキ					
一一										一一一					
一四、五〇										一五、四〇					
四三、元										一六、五二					
<p>前八時三十分熊野發全十一時四十分瀧揚着從瀧后二時天候惡變シタルヲ以テ引揚クニ着手全五時終了熊野ニ向フ 前二時十五分熊野入泊</p>										<p>前八時四十分熊野發正午瀧揚着、從瀧后八時二十分瀧揚發熊野へ向フ 前八時從瀧ノ目的ニテ熊野ヲ發シタルモ風浪強大ナルヲメ油津へ向フ后八時七分油津入泊 午前中瀧獲物ヲ賣却シ后一時五十分全所發山川へ向フ全十一時二十分山川入泊 山川休泊 前八時山川發鹿兒島へ向フ后二時三十五分鹿兒島着 鹿兒島休泊 后一時二十分鹿兒島發山川へ向フ后四時五十五分山川入泊 荒天山川休泊 前八時山川出帆午五時熊野入泊 前八時三十分熊野發全十一時四十分瀧揚着從瀧后二時天候惡變シタルヲ以テ引揚クニ着手全五時終了熊野ニ向フ 前二時十五分熊野入泊</p>					
荒天熊野休泊										荒天熊野休泊					
御用都合ニ依リ前八時熊野發后八時山川入泊										御用都合ニ依リ前八時熊野發后八時山川入泊					
荒天山川休泊										荒天山川休泊					
前八時四十五分山川發熊野へ向フ午后五時中熊野入泊										前八時四十五分山川發熊野へ向フ午后五時中熊野入泊					

計	三 日	二 日	一 二 日 月	廿 一 日	廿 九 日	自 廿 四 日 至 廿 八 日	二 十 三 日	自 廿 二 日 至 廿 一 日
					C W. 3		B SW. 2	
					レ		*	
					自 至 五 時 半		自 至 五 時 十五 分	
					三		三	
					三〇八		三〇八	
					三六七		三〇五	
					北 急 東		東 南	
					イ ラ シ カ		イ ラ シ カ	
其 他					メ バ チ ト ン ホ		メ バ チ	
					三 三		四	
					一、三〇〇		六、七〇	
					二、六、五			
					前 一 時 十五 分 野 野 入 泊		前 七 時 半 野 野 發 正 午 流 揚 着 從 流 后 八 時 四 十五 分 流 揚 發 野 野 向 フ	荒 天 野 野 入 泊
					前 四 時 野 野 發 山 川 向 フ 后 八 時 四 十五 分 山 川 着		前 八 時 十 分 野 野 發 十 一 時 四 十 分 揚 着 后 七 時 三 十五 分 流 揚 發 翌 日 前 一 時 野 野 入 泊	荒 天 野 野 入 泊
					山 川 休 泊 漁 具 手 入 レ			
					前 四 時 山 川 出 帆 鹿 兒 島 向 フ 全 九 時 鹿 兒 島 入 港、 本 日 ヲ 以 テ 本 試 験 ヲ 終 了 ス			

記事

十一月 種子島南東漁場ノ鮪漁業ハ早キハ前月下旬ヨリ出流ヲ見タルモ餌料トスヘキ柔魚真鱈ノ漁獲少ク潤目鱈モ同様ノタメ出流ヲ妨ラル、場合多ク漁場ノ水温ハ二十三度内外ニシテ北東潮流急ナリ一般出流船ノ漁獲未ダ好況ナラサリシ。

十二月 上旬ハ荒天ニ妨ラル、場合アリシモ鮪群ハ漸ク多ク民間船ニハ黒鮪數尾ノ漁獲ヲ爲シタルモノアリ中旬ハ稍ヤ天候定リ水温ハ約一度降下シ潮流北西乃至南西シ秋刀魚群多ク之ヲ追フテ水面ヲ飛躍スル鮪ノ多キハ數年見サル程ニシテ各船共漁獲増加シ魚價モ高騰シ四十圓内外トナリ下旬モ同様好漁ヲ持續セシモ魚價ハ三十圓内外トナリ月末ハ秋刀魚群モ減シ一航海五六尾又全ク皆無ノ船アル等流況衰ヘタルモ今日迄ノ漁獲ハ日向船二十隻ノ最高六七千圓最低千圓内外縣内小型船ハ五六隻ニテ最高二千五六百圓最低六百圓ナリ例年ニ比シ黄肌稀ニシテ日録鮪多ク又黒鮪モ釣獲ヲ見タル如キ異レル現象ナリトス。

一月 前月末ノ衰況ヲ承ケ各船ノ漁獲ハ日録四五貫大ノモノ數尾ヲ得ルニ止マリ縣内艦船ノ轉流セシモノハ上旬引揚ケ從流船モ漸次減セリ中旬本

揚船ノ出漁セシトキハ水温二〇、八比重一、〇二五九ニテ低下シ海流ハ四ニ偏シ強ク流レ低比重水ヲ現出シテ海流トナリ后比重モ高マリ潮流急ニ復シタルモ漁獲ハ「トンボ」目録ノ數尾ヲ得ル程度ニテ魚体モ小トナリ終漁季トナレリ。

五〇

小型發動船漁業試驗

一、鯖釣漁業試驗

試驗趣旨 縣下南方海面ノ鯖釣ニ小型發動船ヲ應用シ操業ノ利便ト經濟關係ヲ明ニセントシ大正四年以來試驗ニ着手シ逐年効果ヲ認め民間企業者モ同種漁船ニ改ムルモノ多ク本年ニ於テハ八十七隻ノ從漁船アリテ著ルシク本漁業ノ殷盛ヲ見ルニ至タリ本場ハ益之レガ發達ヲ助長シ新漁場ノ探求ヲ爲サントシ試驗ヲ續行セリ。

試驗經過成績

試驗船ハ松島丸(肩巾十尺 十二馬力)ニ乗組員ハ機關部員二名漁夫十名主任者ヲ合セ拾三名ニテ初期ハ民間

船ニ先立チ第一回ノ漁信ヲ齎ラシ民間船ノ出動ヲ早メントシ拾壹年二月十八日屋久會根ニテ三百尾ヲ漁獲シ續テ新漁場トシテハ始メデロ永良部南方ノ上瀬及中瀬ニ出漁セルモ到着時波浪高クシテ操業ノ目的ヲ達セズ既ニシテ梅吉會根以北ノ漁季トナリ續行シ難ク三月初旬ヨリ四月中旬迄ハ梅吉會根ニ以後ハ三方會根ヲ主トシ場合ニヨリ梅吉會根根ニモ轉漁シ六月末迄從漁シ出漁回數四拾八回鯖釣三萬二千五百九拾壹斤價格三千三百九拾五圓四十四錢ヲ得前年ニ比シ尾數ハ減シタルモ價格三百四拾七圓餘ヲ増加セリ。

本年ノ漁況ハ屋久會根ニ於ケル第一二回ノ試漁後三月中ノ梅吉會根ハ海水濁シ漁獲不良ニシテ中旬ニ入り漸ク千尾内外ノ漁獲アリ四月ニ入りテハ海水清澄シ漁獲盛ンニシテ最高一夜三千尾位ノ漁獲アリ同月中旬以後三方會根モ好漁トナリ魚体ハ稍々小形ノモノヲ混セルモ各船共豐漁ニシテ魚價モ漸ク低落シ五月中ニ亘リ同様ノ形勢ヲ持續シ六月ニ入り梅吉會根ハ衰ヘテ陸岸ニ近キ岬會根ハ好漁ナリシモ中旬以後漢漁トナリ終漁季トナレリ以上本年ハ各月ヲ通シ魚群

ハ前年同様豊富ニシテ魚價ノ低落モ斤六錢ヲ最低トシ前年ノ如キ暴落ヲ見ズ鱈節價ノ高騰ヲ持續セルタメニシテ各船共好況ナリシ又梅吉會根ノ北ニ在ル湯瀬ハ梅吉新會根ト稱シ新漁場トシテ漸ク認メルラ、至リ出漁船ヲ増加シツ、アリ。

鯖漁業ニ關スル資料 本試驗中鯖漁業ト海水其他ノ關係ヲ知ルベキ基礎的資料ヲ得ントシ常ニ漁業ト共ニ水溫比重其他ノ調査ヲ爲シツ、アリテ既往年次ノモノハ大正九十年年度事業報告ニ發表セルガ本年ノ結果ニ就キ以下記述スベシ鯖漁業ト水溫比重 三月ヨリ六月迄試驗期間中出漁時ノ漁場水溫及比重ハ左ノ如シ

三月	水溫	一七、九——二一、〇	比重	二五三——二六一
四月	水溫	一九、一——二三、〇	比重	二五七——二六六
五月	水溫	二一、〇——二五、二	比重	二五八——二六四
六月	水溫	二二、二——二六、八	比重	二五六——二六三

全漁季ヲ通スレバ鯖漁獲時ノ水溫ハ最低一七、九最高二六、八比重ハ最低二五三最高二六六ノ間ニシテ更ニ之ヲ漁場別ニ見ルトキハ

梅吉會根	水溫	一七、九——二二、七	比重	二五三——二六六
三方會根	水溫	二一、〇——二六、八	比重	二五六——二六四

ニシテ其他屋久會根岬會根ニモ出漁シタルモ其回数少キユヘ其一部水溫比重ノ狀態ヲ示スニ過ギザルユヘ茲ニ掲ケサルモ漁場位置ヨリ見テ屋久會根ハ三方會根ニ類似シ岬會根亦同様ナルモ其位置陸地ニ近キタメ三方會根ニ比シ陸地部ノ影響ヲ受クルコト多キモノト見ハ可ナリ。

表面水溫比重ト下層水溫比重ノ差就中表面ト鯖ノ釣獲時ノ游泳層ト推セラル、十尋乃至十五尋位ノ下層トノ水溫ノ差

小ナルトキ漁獲多シトハ屢發表セルトコロナルガ別表漁業表ニ示セル如ク常ニ同様ノ傾向ヲ認メ三月十六日五月十五日同二十一日ノ如ク特ニ上下水溫ノ差著ルシキトキハ漁獲不良ヲ見ルナリ此上下水溫ノ差ハ普通下層溫度ノ低下スルヲ見ルモ本年六月十三日反對ニ表面ヨリ下層高溫ナリシ一例アリテ其ハ二重潮ノタメ起レルモノニシテ漁獲不良ナル点ハ同様ナリ。

潮流ト漁獲。潮流ノ方向定リ稍ヤ速力アルトキ漁獲ヲ見潮向不定又ハ激ミノトキハ漁獲ナシ潮ノ滿チ始ムルトキ概シテ可ナリ此潮流ノ速力早キトキハ上下水溫ノ差少キトキニシテ前項記述ト關聯セルモノナリ偶々俄カニ水溫ガ前後ニ比シ低キトキ(例令六月二十日)ヲ見ルカ之ハ逆潮等ノ現ハル、モノニシテ漁獲不良ノ因ヲ爲ス。

鯖ノ食餌。前年ト同ジク往々「アミ」蝦ヲ食セルモノヲ見ルノミニテ其他肉眼ニテ形ノ見ユルモノナシ釣餌ヲ食セルモノハ多シ。

鯖ノ卵精。本漁場ニ鯖ノ集合スルハ大体産卵ノタメニスルモノト推セラレ漁季中卵精ノ熟否ヲ驗セルニ四月ニ入りテハ雄魚ノ成熟セルモノハ屢々見受クルモ雌魚卵ハ未熟ニシテ五月ニ於テモ同様ノ状態ナリシ或ハ雌雄共成熟シ産卵ノ盛期ニ在リテハ普通釣鉤ヲ垂ル、上層ノ海面ニ浮上セザルニアラサルカ今后ノ調査ニ待ツベシ。

鯖釣ト集魚燈。本漁業ハ左右船舷ニ座セル釣手ノ間ニ「カーバイト」燈ヲ點シ釣ヲ垂ル、モノニシテ釣糸ヲ垂ル、長サハ十尋位迄ナルユヘ燈光ノ透射ニヨリ釣糸ニ裝スル餌ノ存在ヲ示シ鯖ノ嗜餌慾ヲ盛ンナラシムルニアルベシト想像サル、モ或ハ裝餌ノ魚眼ニ觸レサルモ他ノ感覺ニヨリ之ヲ捕食スルニアラサルカ根本理由ヲ闡明シ得ルノ方法ヲ知ラントシ試ミニ五月二十三日三方會根漁場ニテ漁時ノ半過ニ全ク消燈シ四十分間ニ亘リ釣獲ヲ試ミタルニ概シテ當夜ハ薄明ナリシモ其ノ點燈中ニハ百五十一斤ヲ漁獲シタルニ拘ハラズ消燈后ハ全ク漁獲ナカリシハ前記想像ノ正確ナルニ似タリト雖モ單ニ一回ノ試驗ナルカユヘ他日回ヲ重ネテ斷定ヲ下サントス。

鯖ノ体長 試験期間中調査セル鯖ノ体長左ノ如シ。

鯖体長調

月日	体	長	体	周	漁場	月日	体	長	体	周	漁場
三月十二日	小中大	一尺五二分		七八九	梅吉曾根	五月十六日	小中大	一四二〇		五六八二	三方曾根
同十九日	ククク	一四七		七八〇	同	六月十二日	ククク	一五三〇		五六七九	同
同二十三日	ククク	一五二		七八〇	同			一三八〇		五六七五	

鯖釣漁業表

大正十一年 松島 丸

月日	天候	漁場	從漁時間	表面水温	比重	潮向速	餌料	種類	數量	價格	記	事
三月一日											鹿兒島發后二、二〇山川港ニ入ル	
三月二日											山川瀨泊	
三月三日											前九、〇〇梅吉曾根ニ向ロシモ風浪大ナルヲメ六、一五枕崎着	
三月四日											荒天枕崎休泊	
三月五日											前一〇、〇〇梅吉曾根ニ向ハントセシモ風浪大ニシテ后五、一〇山川ニ入ル	
三月六日											荒天山川休泊	
三月七日												
三月八日												
三月九日												
三月十日	雨北東三											

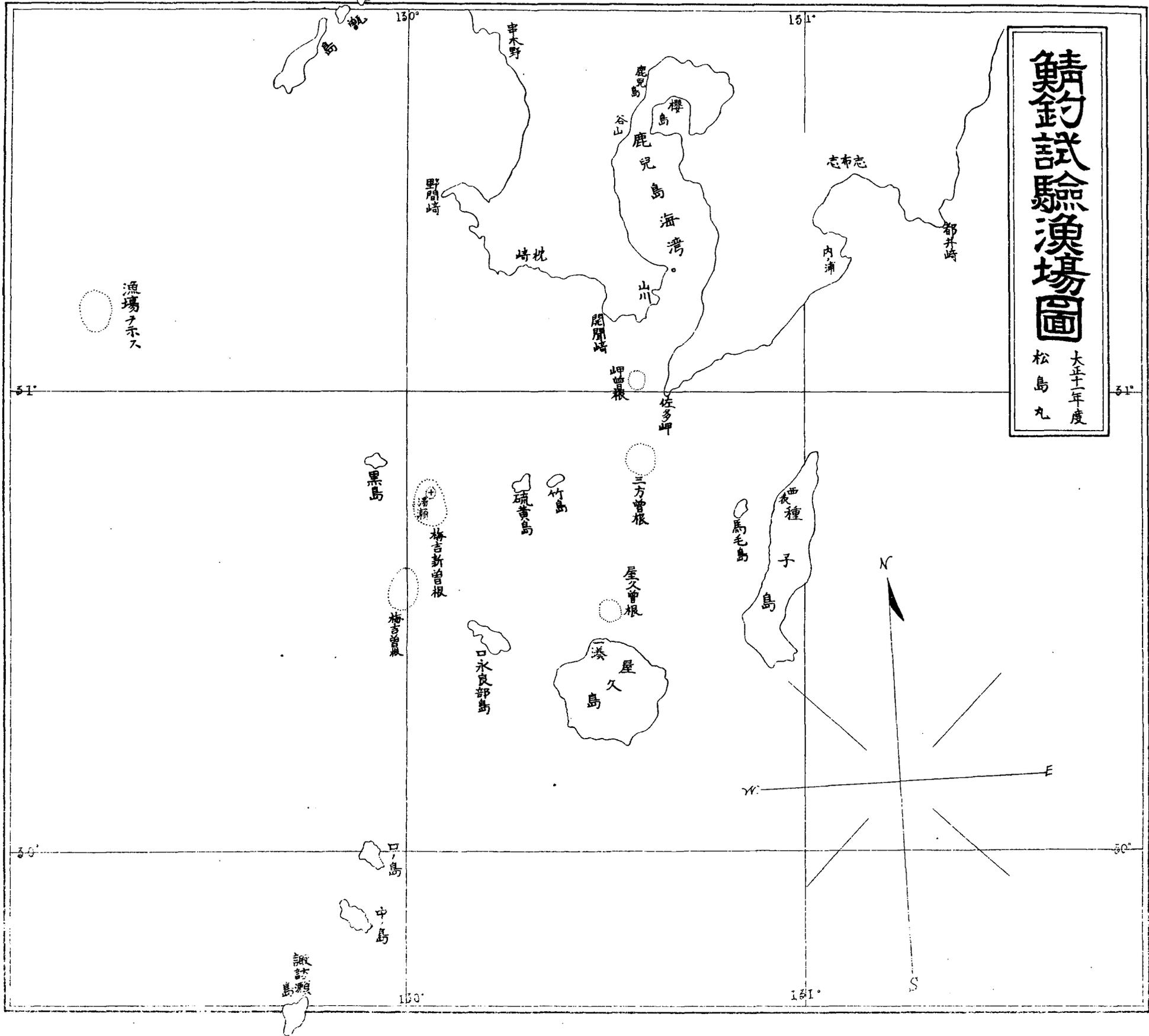
小型發動船漁業試験

四	二	三	四	至自 七五	八	九	十	至自 十一 十三日	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
晴北々西	曇北西		曇北西二		曇北東一	晴北一		晴北西二	晴北一	晴北東一	晴東二	曇東一	曇北東一	晴東一	
ク	ク		ク		ク	ク		ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク	クク ク
一七、四〇 一〇、一五〇	四、〇〇	七、三〇 九、四五〇	一〇、一三〇 一〇、一〇〇	二六、三〇〇 二五、〇〇〇	六、三〇〇 一〇、一〇〇	六、四四〇 五、四〇〇	六、三〇〇 九、四〇〇	一六、〇〇〇 一、〇〇〇	六、三〇〇 六、四〇〇	六、三〇〇 六、一〇〇	〇六、一〇〇 六、一〇〇	九、三〇〇 六、一〇〇	一六、二〇〇 一六、三〇〇	一六、三〇〇 一六、三〇〇	一六、三〇〇 一六、三〇〇
一九、八	一九、四	二〇、〇	一九、一	二二、五	二二、二		二二、〇	二二、二		二二、〇	二二、〇	二二、一	二二、一	二二、一	二二、〇
二六、五	二七、〇	二六、〇	二九、〇	二六、〇		二五、〇		二五、〇		二五、〇	二六、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇
北東急					東急										
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
一、二二五	一、四〇五	八、六	一、四六六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六	一、四九六
二五、五八	二六、七三	六、六	二〇、七六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六	二七、六
前九、一五梅吉ニ向フ終瀧山川ニ入ル	前八、三〇山川發	前一〇、四〇山川后二、〇〇谷山ニ入ル	前六、五五發	前二、一〇口永良部島ニ入り荒天休泊	后三、四〇發終瀧山川ニ向フ	前六、二〇山川ニ入ル同九、一〇發	前九、一〇山川ニ入ル	荒天山川休泊	前七、〇〇發出瀧	前七、一〇山川ニ入り同八、三〇瀧場ニ向フ瀧獲ナシ	前七、二五口永良部島ニ入り后二、二〇發終瀧山川ニ向フ	前四、四五山川ニ入ル后三、一〇發三方ソネニ向フ	前八、四〇志布志ニ入り瀧獲物賣却一〇、一〇發	前〇、一〇山川ニ入り后三、〇五同所發	六三、二五山川ニ入り后二、三〇同所發

小型發動船漁業試験

鯖釣試驗漁場圖

大正十年度
松島丸



十五隻ニ及ベリ。

試験經過及成績

試驗船松島丸、船員漁夫拾一名乗組ミ漁具ハ延繩十五鉢ヲ準備シ拾一年九月十日鹿兒島港ヲ發

シ同十二日對馬國嚴原港着同十三日ヨリ拾一月中迄從業シ拾二月五日終漁歸港セリ期間八十七日間ニシテ出漁ニ拾三回漁場ハ嚴原ヨリ壹州間及對馬西海岸ヨリ朝鮮鴻島間ノ南西一帶ニシテ就中豆酸岬南沖ヲ主トシ遠キハ五島列島北西沖ニ及ビテ漁業シ旗魚六拾參尾其ノ他雜魚ヲ合シ價格千五百三拾五圓ヲ得前年ニ比シ尾數拾五尾價格六拾壹圓ヲ増加セリ。

本年夏季福岡東京ニ虎疫發生ノタメ魚價暴落ヲ懸念シ縣内發動船中出漁ヲ見合セタルモノアリ嚴原ニ根據セルモノハ前年ヨリ減セルモ九月中旬ハ朝鮮鴻島南西ニ好漁アリ同下旬ヨリ拾月初メハ魚群多カリシモ餌料トスベキ鯖ノ漁獲少ク魚價モ虎疫ノ爲メ下落シ爾後荒天海水濁濁シ偶意外ノ好漁ヲ爲セルモノアルモ概シテ漁獲少ク仍テ本船ハ氷ヲ積載シ濁濁水帶ヲ脱シテ南西ニ遠航シ好績ヲ得テ民間船ヲ之ニ誘ヒ好漁ヲ見タリ拾一月ニ入りテハ荒天多ク漸次漁獲ヲ減ゼリ本年嚴原港ニ根據セシ縣内發動船ノ漁獲ハ最高三四千圓ニシテ魚價ノ低落ト餌漁困難ノタメ必ズシモ好況ト稱シ難キモ昨年串木野村漁業者中發動船ニ改メタルモノ好成績ナリシニ由リ本年同地漁船ノ發動船ニ改メタルモノ四拾餘隻ニ達シ之等ハ五島沖ノ漁場ヲ主トシ漁獲物ヲ自村ニ持歸ルタメ魚價暴落ノ影響モ少ク且船體ノ大型ナルタメ漸次遠航シ濟州島南部ニ及ビ漁獲多ク最高壹萬八千圓ノ漁獲ヲナセルモノアリ他ノ帆船モ亦テ改造セラレントシ著シク面目ヲ革メツ、アリ。

漁獲時ノ水溫比重 本年出漁中漁獲時ノ水溫比重

九月	水溫	二四、八——二六、〇	比重	二三六——二五五
十月	水溫	二一、二——二四、二	比重	二三九——二五六

十一月 水溫 一八、九——二二、六 比重 二三九——二五一

全期ヲ通ジ水溫ハ一八、九——二四、八比重二三六——二五六ノ間ニ在リテ之ヲ前年ニ比スレバ水溫ハ高ク比重ハ低カリシ海水ノ潤濁ハ本漁業ニ不利ニシテ殊ニ其水帶中ニハ河豚多ク裝餌ヲ奪食セラル九月下旬ノ如キ魚群ハ相當ニ多カリシモ河豚害ノタメ充分ノ漁獲ヲ爲スヲ得ザリシ。

本漁船ト前後シテ對島近海ニ出漁セシ小型發動船及帆船ノ同期間ノ漁獲ハ左ノ如ク總額四萬六千五百九十一圓ナリ。

船名	航海數	噸數	船主	船種	噸數	價格	船主	船種	噸數	價格
富江丸	三三	四三六二	高榮丸	佐多	一九	一、三六	追田榮造	島平	一六	一、五三
吉野丸	七	一、〇三	錦江丸	谷山	九	一、〇三	三善善太郎	ク	一四	一、四六
第二勢至丸	三三	二、二六〇	奉公丸	谷山	三	一、七五	村中清志	ク	一六	一、六七
第一東新丸	七	八五九	浦田丸	額島	一八	二、〇七	平石正次郎	羽島	三三	一、五八
富士丸	七	三、五五	松吉丸	谷山	一五	二、三六	熊本伊世太郎	串木野	一六	九三
川尻丸	七	一、八三八	瀬戸口吉太郎	島平	一六	一、三四	浦島十次郎	ク	一七	一、四四
日進丸	元	二、八二	久間末吉	ク	一四	六六	入枝善次郎	ク	一六	一、九六
海運丸	元	一、七三	佐賀榮之助	串木野	一四	八三	村濱興次郎	ク	二三	二、三七
佐岬丸	二〇	二、六五	川口三之助	ク	一三	一、三四	中野金太郎	ク	一三	九六

旗魚延繩漁業表

大正十一年 松島丸

月日	天候	漁場	從漁時間	表面水溫	比重	潮向速	餌料	漁獲種類	價格	記事
十九日	晴									鹿兒島發對馬ニ向フ 天候ノタメ久志泊
十一日	晴									荒天久志休泊
十二日	晴									平月ヲ經后六、四〇嚴原入港

小型發動船漁業試驗

十三日	晴南東二	イ	自前七、三〇〇 至后二、〇〇〇	八	三五、八	北東東急	サ	バ	カシキ	一	一六、四	后七、三〇ヨリ餌釣一、二〇漁場ニ向フ
十四日	晴南東三											后九、二〇ヨリ餌釣サハ二五〇ヲ得
十五日	晴南東二	ロ	全前五、五〇〇 全后三、二〇〇	二五、四	二五、四	北東急	ク		カシキ	二	一四、四	荒模様殿原休泊
十六日	曇北東五											荒天休漁
十七日	曇北三											后三、四五發豆酸崎沖ニ至リ六、一〇ヨリ餌釣サハ二〇〇ヲ得
十八日	晴北東二	ハ	全前六、〇〇〇 全后二、〇〇〇	二六、五	二五、四	北東急	ク		カシキ	三五	二〇、六	后一、〇〇ヨリ餌釣
十九日	曇北六	ニ	全前八、一〇〇 全后二、〇〇〇	二五、九	二五、九	北東東急	ク		フカ	五	二五、〇	荒模様トナリ殿原ニ入ル
自二十日 至二十二日												荒天殿原休漁
二十三日	晴曇南四	ホ	全前六、五〇〇 全后二、三〇〇	二五、八	二四、四	西	ク		カシキ	一	一五、四	后六、三五ヨリ餌釣サハ三〇〇ヲ得
二十四日												北西強風トナリ餌釣チナサス
二十五日	西北東五											荒天殿原休漁
二十六日	曇南東六											豆酸崎西ニテ后六、三五ヨリ餌釣サハ六〇刀魚二〇ヲ得
二十七日	雨北東五	ヘ	全前七、三〇〇 全后一、〇〇〇	二四、八	二四、六	北	サ	ハ	カシキ	二	二六、四	二十九日迄淺濠三十日ヨリ殿原ニテ荒天休漁
自二十八日 至十月六日												后五、一五發餌揚ニ至リイカ八〇ヲ得
七日	曇北東二											夜イカ釣チナサス
八日	晴北一	ト	全前七、〇〇〇 全后二、〇〇〇	二五、五	二四、八		イ	カ	カシキ	二	一五、三	河豚多クシテ餌チ奪ハル
九日	晴東二											荒天殿原休漁
十日	曇西四											后六、一〇ヨリ豆酸崎ニテサハ二〇〇ヲ釣ル
十一日	晴北四三	チ	全前七、〇〇〇 全后一、三〇〇	二五、二	二四、八	東急	ク		ブリ	五	一八、〇	

コロニシテ近年一般小型發動船ノ從漁スルモノ増加セルタメ新漁礁開發ノ目的ヲ以テ試驗セリ。

試驗經過成績

試驗船松島丸ハ機關部員二名漁夫七名ト主任者一名トヲ合シ十名乗組拾一年七月拾八日ヨリ八月

拾八日ニ至ル間草垣島ノ西ニ當ル西新會根ニ試驗セントシ當時天候ノ都合ニヨリ種子島東部ニ一回試漁シ後八月十五日漸ク好天氣ヲ得西新會根ニ從業セリ同島ハ草垣島ノ南西二時間ノ航程ニシテ礁上錘測八拾尋ニテ當日濃霧ニテ方向ヲ定メ難キニ由リ礁上ニ浮標ヲ置キテ之ヨリ四方向ニ一回ヅ、漁業シ鮐外雜魚二拾尾ヲ得初回ノ試漁トシテハ良好ノ成績ヲ收メタリ後十二月二十日ヨリ翠年一月七日迄試驗セシモ新船照洋丸回航ノ爲メ乗組員不足シ遠航困難ナルタメ種子島東部ニ漁業シ兩期ヲ通シ出漁六回漁獲ハ赤腹鮐其他雜魚百五十八尾ニシテ内二十七尾ハ賣却ニ至ラサリシモ賣揚價格二百八拾四圓貳拾壹錢ヲ得タリ民間全種漁船モ冬季本業ニ從事スルモノ多ク良好ノ成績ヲ得タリ。

瀨魚延繩漁業試驗日誌

月 日	天候	風向	力候	場	從漁時間	漁具	使用數	水面	比	海	餌	漁	獲	物	記	事
十七日																
十八日																
十九日																
自二十日 至二十七日					自后七 至翌日前七時	六鉢	五回	三、五				種類	數量	價格		
二十八日												其他	五〇尾	三、〇〇		后二時鹿兒島港出帆山川港へ向フ 諸準備ノタメ山川休泊 荒天山川港休泊
二十九日																前九時三十分山川發田ノ脇會根ニ向 フ后六時二十分漁場著從漁 前七時漁場發漁獲物賣却ノタメ谷山 へ向フ后六時五十分谷山着
三十日																漁獲物賣却ナリシ船底ノ掃除ヲ施行 ス
三十一日																谷山港休泊

省ヨリ前後二回ニ六十羽ノ鳩配布ヲ受ケ試験ヲ開始セルモノナリ。

飼育訓練ノ經過

鳩舎收容ノ鳩ハ前年末ヨリ持越ノモノ及其所産孵化鳩ニシテ既ニ前年ヨリ訓練ヲナセルモノハ毎日二回乃至三回出舎飛行訓練ヲ繼續シ孵化鳩ハ發育ニツレ出舎訓練、屋外飛行訓練ヲ爲シタル后陸上遠距離ヨリ放鳩訓練ヲ爲シ民間漁船ノ實用ニ供セリ。

本年舍外各方向ヨリ放鳩訓練ヲ爲セル狀況左ノ如シ

放鳩訓練成績

(大正十一年中)

月日	放鳩地点	方向	天候	放鳩羽數	放鳩時	到着時	經過時	方向判定時	一分間速力	記	事
十一年五月十日	栗ヶ野	西	晴西北西軟	二三前	九、〇〇	九、〇四	四	二	九、二〇	鹿島丸ヨリ放鳩二四七七號一羽失踪	
全 十二日	枕崎 南東海上		曇 北西	一八	七、〇〇	七、三二	三	二	一一、二二		
六月一日	遠見場		一 晴西北西	一七	一〇、〇〇	一〇、〇七	三	二	五、〇〇		
全 三日	枕崎 南東海上		一〇 曇東南東	一四	一〇、一〇	一〇、三三	三	二	一、〇〇〇	共榮丸ヨリ放鳩	
全 九日	全		二 曇南々東	一五	一〇、三〇	一〇、四三	一	三	九、七	南薩丸一號ヨリ放鳩	
全 十一日	全		三 晴 北西	一六	九、〇〇	九、三三	三	五	一、四七	賢丸ヨリ放鳩二一九三二〇號二羽失踪	
全 二十日	全		二 晴 南東	一五	八、〇〇	八、三〇	三	二	一、三五	虎丸ヨリ放鳩	
全 二十三日	耳取峠 枕崎 南東海上	西	五 晴北々西	一〇	一〇、〇〇	一一、〇〇	七	一	八、三	高砂丸一號ヨリ放鳩	
七月九日	耳取峠 南東海上	西	六 小雨南々西	一五后	四、〇〇	四、三三	四	一	三、〇〇		
全 十三日	耳取峠	西	五 晴南々東和	三五全	三、〇〇	三、三六	八	一	七、四		
全 十五日	泊浦	全	八 晴東南東	三五前	一〇、五八	一一、〇〇	三	五	一、四三		
全 二十三日	耳取峠	全	五 曇 南東	三五后	四、〇〇	四、三三	五	一	一、二五		

傳書鳩利用試験

全二十九日	栗ヶ野全	三晴	四ヶ	一八前	100.00	101.33	八	三	六〇〇	
全三十日	坊津全	八晴	南西ヶ	三三	110.00	110.00	二〇	八	六七七	
八月七日	久志全	九晴	南々西ヶ	三后	115.00	116.00	一三	六	一四八二	
全十七日	白澤津東	七晴	南東ヶ	壹前	115.00	115.00	一〇	四	一、一六七	
全十八日	門ヶ浦全	二晴	ヶ	三三	100.00	100.00	一三	一	九七七	
全二十一日	石垣全	一五晴	ヶ	三三	110.00	110.00	一三	三	一、一六三	
十一月廿日	山川港全	三曇		五	九〇.〇〇	100.00	一、一五	二〇	六七	八一四號失踪
十二月十四日	白澤津全	七晴	北軟	三	100.00	110.00	一、一〇	〇	一七五	
全十七日	石垣全	一〇晴	北々四強	一八	〇.〇〇	二、〇〇	一、一〇	二	二五	
全二十七日	額娃全	三曇	北軟	一〇	八、〇〇	八、四三	一、一五	二	一、六二六	
三月一日	枕崎南東海上	七曇	西北四ヶ	二五	〇.〇〇	〇.二〇	一〇	二	八七五	照洋丸ヨリ放鳩七〇號失踪
全二日	山川港東	四曇	南東ヶ	一五	八、〇〇	九、一〇	一、〇〇	一〇	八〇〇	同二羽連着 一羽二五號失踪
全十三日	枕崎南海上	三全		一〇	八、一〇	九、二〇	一、〇〇	一〇	一、〇五〇	同一羽連着
全二十七日	南東海上	二曇	南々東	一五	九、〇〇	九、二〇	一、〇〇	二	一、三六九	照洋丸ヨリ放鳩一羽翌朝歸還

前表ニ示セル如ク放鳩訓練ノ回数ハ海上九回陸上十八回ニテ速力ハ海上ヨリセルモノハ一分間六百十七乃至三千五百米ニシテ陸上ヨリセルモノハ百二十五乃至千六百十六米ニシテ概シテ海上ノ方快速力ニテ歸舍スルコトハ前年成績ニ同ジ本訓練中失踪トナレルモノハ六羽ニシテ放鳩延羽數五百三十九羽ニ對シ一%余ニ當レリ

本年飼育中鳩ノ増減ハ各月末鳩舎現在數次ノ如シ

十一年
四月 五九羽
五月 五七羽
六月 七六羽
七月 八七羽
八月 九一羽
九月 一〇四羽

病鳩經過

發病月日	四月十日	四月十八日	五月二十六日	十月十五日	全十七日
鳩番號	一二	八一六	八〇七	四八	三二四
羽色特徴	灰	灰胡摩胸差毛	灰	灰胡摩	全
性別	全	全	全	全	全
全治月日	五月二日	全二十日	十一月五日	十月二十六日	
死亡月日		五月二十九日			
記	翼病 頭部鷹害ニカ、ル セシエレッツス病	電線ニ衝突翼ヲ腫傷ク ミユケ病			
事					

産卵孵化狀況

(大正十一年)

月別	十一月	十月	十一月	十二月	十一月	十月	十一月	十二月	十一月	十月	十一月	十二月
産卵數	一七	一六	二〇	一三	一六	一〇	四	八	三二			
破損數			二									
中敗數	四	三	六	二	四							
孵化數	二〇	一八	一九	二二	七	四	四	二				
孵化后死亡	二		二					二				
離巢鳩ノト	一八	一七	二二	一七	七	四	四	四				
記												
事												

合	二	三	月	計
二月	二九	二八	一月	一九二
羽色特徴	二	一	五	
性別	一〇	二二	五一	
記	二五	一一	一六	
事	四	三	一三	
	二二	八	一〇三	

傳書鳩配布

配布月日	鳩番號	羽色特徴	性別	記	事
十一年 十月八日	七九	灰胡麻眼尻差毛	雌	本縣種畜分揚へ配付	
全	八一	栗胡麻	雄	全	
十一月十九日	八七	灰胡麻片羽白	雌	揖宿郡山川瀆經漁船黒岩賦吉へ配布	
全	七六	灰胡麻	雌	全	
全	八四	蠶灰	雌	全	
全	八八	灰胡麻	雄	全	

漁船使用成績

放鳩訓練ヲ爲シタル鳩ハ鳩舎所在地川邊郡枕崎ノ鯉漁船ヲシテ實際ニ使用セシメタリ一回ノ携行鳩數ハ使用船増加ノタメ普通三羽トシ鳩籠ニ入レ船積シ必要ノ場合通信文ヲ鳩舎ニ送ルコト、シ漁獲高報告ハ鳩舎南方三十湊位ノトコロヨリ爲サシムルモ其他ノ事故報告ハ隨所ヨリ爲サシムルコト、シ又數回遠距離ノ漁場ヨリモ通信ヲ試ミタリ

本年度内使用ノ成績ハ別表ニ詳細ヲ示セルモ便宜上概括スルトキハ次ノ如ク

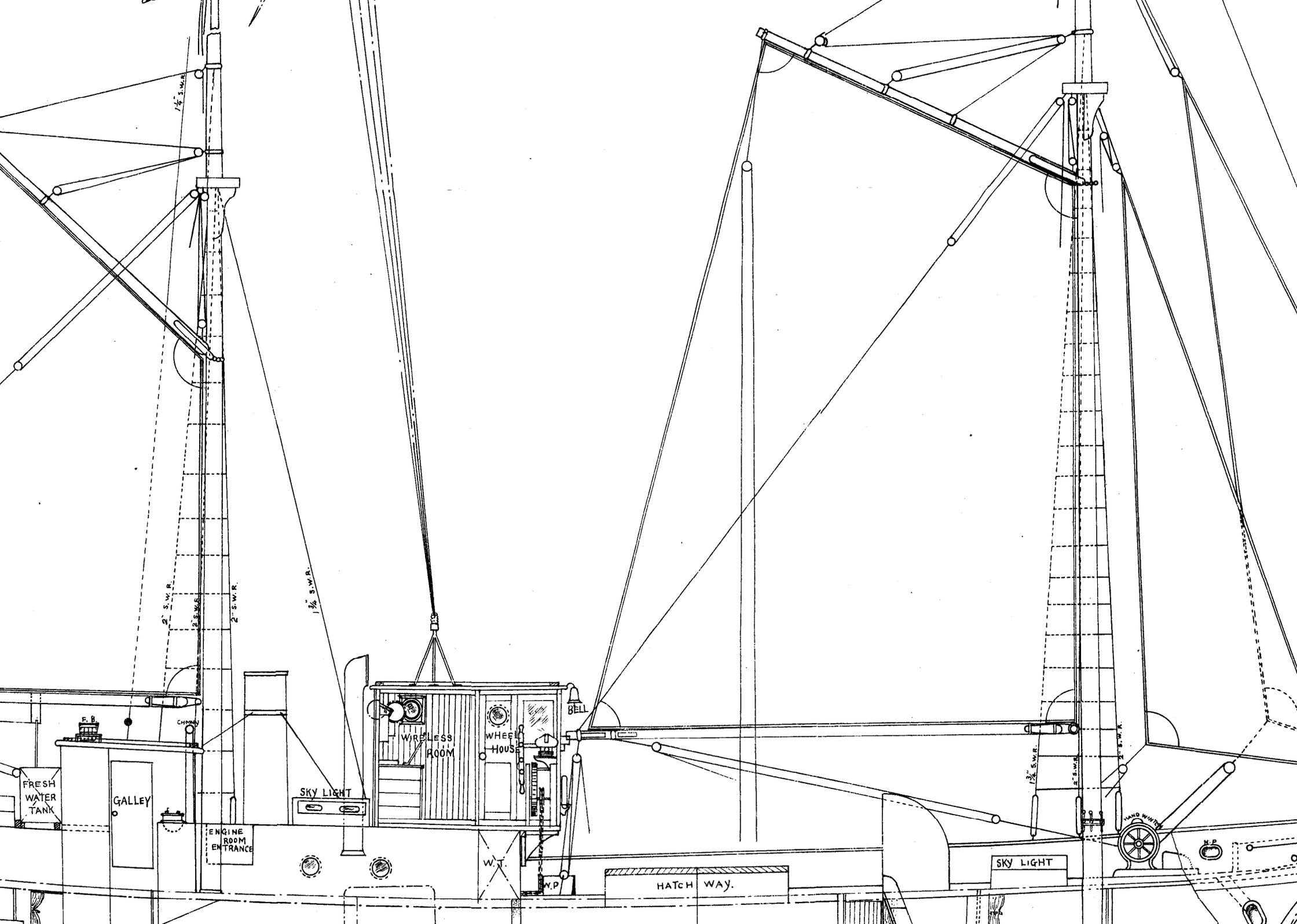
携帶回数	放鳩セザリシ回数	放鳩回数	本船ヨリ早着回数	全連着回数	不着	放鳩延羽數	歸舎延羽數	一時失踪
九九	二一	七八	六〇	一五	三	三五九	三二七	三二

放鳩セサリシ場合二十一回ハ本船カ夜間入港ノタメ機會ヲ失セシモノニシテ他ノ七十八回ハ實用シ内六十回ハ本船歸港ヨリ早著シ通信ヲ齎ラシ効果ヲ認メタルモノナリ本船ヨリ遲着セルハ十五回ニシテ總テ放鳩時日没ニ近ク又ハ降雨荒天等ノ場合若クハ鷹害ニ罹レルトキニシテ全ク通信不能ニ了ハレルハ三回ニシテ内二回ハ荒天ナリシト一回ハ遠距離ナリシニ由レリ又屢々失踪鳩ヲ出セルハ羽數不足ノ爲若干訓練不足ノモノヲ混用スルノ止ムヲ得サリシニ由ル本年度ノ放鳩中遠距離ヨリ試ミタルハ芽瀬(一六〇吉米)一回臥蛇島(一八二吉米)三回、五號會根(二五〇吉米)一回ニシテ内五號會根ヨリセルモノハ本船ト同着シ臥蛇島ヨリセルモノ一回ハ全ク不能ニ了レルモ二回ハ后着シ芽瀬ヨリセルモノモ后着トナレルモ歸舍通信ヲ齊ルハ前年ヨリ進境ヲ示セルモノナリ

鯉漁船使鳩成績

(大正十一年)

回	船名	鳩積込月日	羽數	放鳩日時	放鳩位置 鳩舍距離	歸舍日時	經過時	速力 (米)	本船比較	記	事
一	大正丸一號	四月四日	二十一	午前七時	硫黃島沖 (吉米)十一 五六	午前八時	一〇〇	一、三四	四時早シ	鯉九〇〇尾漁獲報告ナス	
二	傘三號	全八日	三十六	后三時	同	午前十時	一〇〇	三〇	后	鷹ノタメ負傷一羽失踪トナル	
三	大正丸一號	全十三日	二十四	前二時	開闢沖 三三	前十四時	一〇〇	二、六六		出漁報告ナス	
四	傘一號	全十五日	二							二十八日夜間入港放鳩セス	
五	清海丸一號	全十六日	三							十七日天候不良餌鳩ヨリ引返シ放鳩セス	
六	南薩丸一號	全十七日	二							二十八日夜間入港放鳩セス	
七	大正丸一號	全十三日	二十九	前二時	硫黃島沖 五六	后十九時	一〇〇	三三	同	七〇〇尾漁獲報告ナス一羽失踪トナル	



FRESH WATER TANK

GALLEY

ENGINE ROOM ENTRANCE

SKY LIGHT

WIRELESS ROOM

WHEEL HOUSE

BELL

HATCH WAY

SKY LIGHT



1/4" S.W.R.

2" S.W.R.

2" S.W.R.

2" S.W.R.

1 3/4" S.W.R.

1 3/4" S.W.R.

2" S.W.R.

2" S.W.R.

W.T.

M.P.

八	大平丸	全	十九日	三十一日前	九、〇〇	鹿兒島港	四五	二十一日前	一〇、〇〇	五、〇〇〇	出漁報告ヲナス
九	宮崎丸	全	五月四日	一四日前	一〇、〇〇	松ヶ浦沖	九	四日后	一〇、〇〇	五、〇〇〇	コルセツト使用ノタメ速力不具
一〇	鹿島丸	全	十二日	八十二日前	七、〇〇	立神沖	〇	十二日前	七、〇〇	二、二二	出漁報告ヲナス
二	同	全									十九日夜間入港放鳩セス
三	大正丸一號	全	十四日								二十一同前
三	共榮丸	全	六月三日	二四三日前	一〇、〇〇	白澤沖	〇	三日前	一〇、三三	三、一〇〇〇	出漁報告ヲナス
四	同	全				磯黃島沖	五〇	六日前	六、五五	三、二五〇〇	八〇〇尾漁獲報告ヲナス
五	高砂丸	全	二日	二七日前	六、〇〇	枕崎沖	二六	七日前	六、五五	二、五〇〇	二〇〇〇尾漁獲報告ヲナス
六	南薩丸一號	全	九日	一九九日前	一〇、〇〇	同	一一	九日前	一〇、四四	一、五九七	出漁報告ヲナス
七	寶丸	全	十一日	二四十一日前	九、〇〇	同	二二	十一日前	九、三三	二〇、一四六	同
八	同	全									十七日夜間入港放鳩セス
九	日進丸	全	十三日	三十三日前	一〇、〇〇	立神沖	一六	十三日前	一〇、二〇	一、五三三	出漁報告ヲナス
一〇	南薩丸一號	全	九日	三十八日前	八、三三	磯黃島沖	五六	十八日前	九、二〇	一、二四四	一三〇〇尾漁獲報告ヲナス
三一	日進丸	全	十三日	三二十日后	四、〇〇	全		二十三日前	一〇、〇〇	三、五〇〇	三時二十分 早シ
三二	寶丸	全	二十日	二二十日前	八、四〇	立神沖	一一	二十日前	八、五〇	二〇、一三七	后 著
											出漁報告ヲナス

三 同	三 富士丸	三 大正丸一號	三 高砂丸一號	三 同	元 南薩丸一號	元 清海丸一號	三 日出丸	三 全	三 清海丸一號	三 南薩丸一號	三 幸榮丸二號	三 蛭子丸五號	三 余 二號	三 富士丸	元 神山丸	元 余 一號
全	全二十七 日	七月二 日	全九 日	全	全	全十八 日	全二十 二日	全	全二十六 日	全十 日	全二十 七日	全三十 日	八月四 日	全十 日	全二十 一日	全二十 二日
三二十四 日前	三七月四 日后	三三日 后	一五九 日后	二十日 前	八十日 前	三二十二 日前	三二十二 日前	三二十八 日后	三八月一 日前	三	三八月一 日后	三	三六日 后	三三十一 日后	三二十一 日前	三
九、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	六、〇〇	七、〇〇	六、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	五、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	九、〇〇	三
硫黃島沖	臥蛇島	石垣沖	立神沖	硫黃島沖	口永良部島	全全	開聞沖	口永良部島	立神沖	湯 瀬	立神沖	立神沖	石垣沖	白澤沖		
四二	一八二	二	六	五七	一〇	二	三四	一〇	一八	六七	二七	二七	〇	〇	〇	〇
二十四日 前	五日 前	三日 后	九日 后	十一日 前	十一日 前	二十三日 后	二十二日 后	二十九日 前	一日 前	一日 后	六日 后	六日 后	十二日 后	二十一日 前		
九、五〇	五、三〇	二、六〇	四、二〇	七、三〇	八、〇〇	六、〇〇	四、〇〇	九、〇〇	五、三〇	四、四〇	五、一〇	五、一〇	六、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇
五〇	三三	六	四	三三	三三	二四、〇〇	三、三〇	一九、〇〇	三	三、一〇	四	四	二〇〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇
一時早 シ	着	着	着	着	着	着	着	着	着	二時間早 シ	一時間早 シ	一時間早 シ	着	四時間早 シ		
漁獲報告チナス	雨天ノタメ一羽失踪トナル	荒天引返ノ報告チナス	遭難漁船ノ無事報告チナス雨天ノ タメ后着	遭難船ノ無事報告チナス	遭難報告チナス	事故ノタメ引返シタル報告チナス	幼鳩一羽失踪トナル	五〇〇尾漁獲報告チナス	二十七日夜間入港放鳩セス	三〇〇尾漁獲報告チナス	三日夜間入港放鳩セス	餌料欠乏ノタメ出流中止報告チナ ス	同前	機關故障ノタメ出流中止報告チナ ス	荒天ノタメ二十六日夜引返シ放鳩 セス	

四〇	清海丸一號	全二十三	二十六日前	五、〇〇	立神沖	二〇	二十六日前	六、〇〇	五	四四	三十分早シ	一七〇〇尾漁獲報告チナス
三九	共榮丸	全二十五日	二十五日	一、〇〇	湯瀬	六七						荒天ノタメ引返シ鳩ハ二羽共失踪トナル
三八	常盤丸	全	三十日	一、〇〇	開聞沖	三五	三十日	三、〇〇	三	三八		出漁報告チナス
三七	神山丸	全二十六日	九月三日	九、〇〇	竹島沖	五七						雨天放鳩二羽共失踪トナル
三六	余一號	九月一日	三日	二、〇〇	開聞沖	三一	三日	二、三〇	三	一、四八	二時半早シ	荒天出漁中止報告チナス
三五	寅丸	全二日	五日	六、〇〇	硫黄島沖	五四	五日	六、三〇	三	三、〇〇	三時早シ	七〇〇尾漁獲報告チナス
三四	常盤丸	全七日	十三日	三、〇〇	黒島沖	六二	十三日	三、四〇	四	一、七一	三時早シ	五〇〇尾漁獲報告チナス内二羽失踪トナル
三三	千代丸	全七日										十二日夜間入港放鳩セス
三二	富士丸	全八日	十六日	〇、三〇	口永良部島	八〇	十六日	一、四〇	一	一、三三	四時早シ	一〇〇尾漁獲報告チナス一羽ハ翌日歸舍
三一	高砂丸一號	全										二十三日夜間入港放鳩セス
三〇	大福丸	全十日	十九日	六、〇〇	口永良部島	九七	十九日	二、〇〇	五	三三	着	内一羽ハ二十二日一羽ハ十一月十七日歸舍セリ
二九	大正丸二號	全十七日										荒天ノタメ引返ス
二八	日進丸	全二十日	二十三日	六、五〇	黒島沖	六一	二十三日	八、二〇	一	三二	三時早シ	二四〇〇尾漁獲報告チナス
二七	寅丸	全二十一日										二十七日夜間入港放鳩セス
二六	天智丸	全	二十七日	一、〇〇	口永良部島	九七	二十八日	九、〇〇	二	〇〇	着	雨天ノタメ内二羽失踪トナル
二五	大正丸一號	十月五日	七日	一、〇〇	開聞沖	三八	七日	二、三〇	五	八四		餌場ヨリ出漁報告チナス
二四	同	同										十三日夜間入港放鳩セス

九 同	全	三 二十七日前 10,000	山川 港	四二	二十七日前 10,000	五 一,000		内一羽ハ翌朝歸舎
八 天 祐 丸	全 二 二十八日	三 四月五日前 六,000	硫 黄 島	四〇	五日前 六,000	三 一,000	二 時 早 シ	一五〇〇尾漁獲報告荒天ノタメ一羽失踪トナル
七 福 茂 丸	全	三 四月五日后 五,000	立 神 沖	八	五日后 五,000	一 〇 一,000	一 時 早 シ	一五〇〇尾漁獲報告チナス
六 經 子 丸	全 二 二十九日	三 四月三日前 10,000	湯 瀬 沖	八〇	三日后 〇,000	二 一,000	四 時 早 シ	一〇〇〇尾漁獲報告チナス
五 經 子 丸 三 號	全 三 十一日	三 三十一日后 一,000	櫻 島	五二	三十一日后 二,000	五 一,000		出漁報告内二羽失踪トナル
四 日 進 丸	全	三 四月六日前 九,000	硫 黄 島 沖	四〇	六日前 九,000	三 一,000	一 時 早 シ	一一〇〇尾漁獲報告チナス
三 照 洋 丸	全 二 十六日	三 三十一日前 七,000	全	六〇	三十一日前 八,000	一 一,000	一 時 早 シ	一六〇〇尾漁獲報告チナス内二羽失踪トナル
二 同	全	三 三十日前 八,000	臥 蛇 島	一八二				全部失踪トナル
一 同	全	六 三十日后 一,000	五 號 管 根	二五〇	三十一日前 九,000	四 一,000	同 着	漁獲報告チナス内五羽一時失踪トナル

本年ノ試験中經驗セル事項二三ヲ附記スヘシ

飼料 鳩ノ抱卵音育雛中ハ飼料ヲ減スルモ普通一羽ノ日量三十五瓦(約八匁)ヲ標準トシ飼料ノ種類ハ白豌豆ヲ七十、

玉蜀黍ヲ三十、ノ割合ニテ朝十瓦晝十瓦夕刻十五瓦ニ分與シ食後ニ玄米ト菜種子ノ混合セルモノ少量ヲ與ヘタリ

飲料水 常ニ清ラカナルモノヲ與ヘ一日三回取替フルヲ最良トス「サイホン」式飲水器使用ノ場合モ一二回位取替フ

ル要アリ

鹽土 乾燥セル赤土粉、煉瓦粉、牡蠣殻ノ粉又ハ卵殻ヲ等分ニ混合シ之ニ五分ノ石膏三割ノ食鹽ヲ加ヘ適宜水ヲ加ヘ

テ煉リ合セ球型ニ乾固セシメタルモノヲ室内ニ置キ啄食セシムルヲ可トセルモ其準備ナキトキハ煉瓦、牡蠣殻、卵殻

等ヲ粉碎混合セルモノヲ作り飼料ヲ與ヘタル後一握ツヽ與フルモ可ナリ

歸巢性 鳩ノ歸巢能力ハ雌雄ニ依リ多少ノ相違アリテ雌ハ殊ニ強シ巢房ノ所有慾ト雌雄ノ相愛及卵雛ニ對スル愛情ヨ

リ來レルモノニシテ雌鳩ノ卵雛ニ對スル愛情ハ熱烈ニシテ放鳩地ヨリ歸舍スルヤ直ニ自己ノ巢房ニ飛込ミ卵雛ノ異狀ナキヤヲ確メ然ル後水ヲ飲ミ飼料ヲ執リ再ヒ巢房ニ入りテ卵又ハ雛ヲ抱育スルナリ

方。向。判。定。 鳩ノ方向判定ハ吾人ノ最モ興味ヲ持ツトコロニシテ鳩自身モ最大苦心スルコトナルヘク之ヲ實地經驗スルニ初メ放鳩セハ地上約三百米ノ高度ニ舞上リ旋回飛翔シテ鳩舎ノ方向ニ進ム多少彎形ヲナセル海ニ沿ヘル陸上ニテ放鳩スルトキハ鳩ハ其海灣ヲ直線ニ横切ルコトナク陸ニ沿ヒテ迂回シテ鳩舎ニ歸ルカユヘ陸上ノ記憶ヲ基トスル如シ之ヲ鳩舎南方沖合ノ漁場ヨリ放鳩スルトキハ此地方ニ於ケル高嶽トシテ聳フル屋久島ヲ目標トシ更ニ開闢嶽ヲ便リトシテ陸上ニ來リ夫レヨリ鳩舎周圍ノ地形目標ニ對スル記憶ニ依リ歸舍スルモノノ如シ十二年三月三十一日最モ遠距離ノ五號會根漁場ヨリ放鳩九時間シテ歸還セルモノ、如キ屋久島以南諸島ヘ記憶ニヨリ方向ヲ判定セシモノナルヘク卓越ナル視力ト記憶官能ノ銳敏ナルヲ知ルニ足ル

飛。行。能。力。ト。放。鳩。時。刻。 鳩ノ飛行能力ハ其性質ト訓練ノ如何ニヨリ異リ今日迄ノ實驗ニヨリ屢々一分間三千米以上ノ如キ快速力ノ例ヲ見タルモ平均ハ一千米位ト見ルヘシ通信放鳩ノ際ハ更ニ八百米ト定メ放鳩時ヲ定ムルヲ安全ナリトス近距離ヨリ爲ス場合ハ午後放鳩スルモ可ナレトモ時間ノ許ス限リ日盛リ前ニ歸舍セシ遠距離ノ場合ハ遅クモ日没前ニ歸舍スル様其速力ヨリ歸還時ヲ算出シ放鳩スルコト必要ナリ何レノ場合ニ於テモ早朝ニ爲スヲ得ハ好都合ナリ又放鳩時風向ノ順逆ナルコトモ其速力ニ關係スルコト、考慮ニ加フヘキモノニシテ天候不良ノ場合ハ不可味シ降雨羽毛ノ濕潤スルトキハ飛行力鈍ク又夜間ハ特ニ夜間使用トシテ訓練ヲ與ヘサル鳩ニ在リテハ飛行不能トシテ使用ヲ避ケサルヘカラス

放。鳩。地。點。 沖合島嶼ハ鷹ノ栖息アルユヘ少クモ島ヨリ一湮以上離レタル海上ヨリ爲スコト必要ナリ十二年三月十五日照洋丸カ黒島附近ニテ鳩十羽ノ集團放鳩セシ際鷹群ニ要撃セラレ二羽失踪鳩ヲ出シ前年大正九一號ガ爲セシ十羽集團放鳩ハ其七羽ヲ失ヘルコトアリ同島ハ元ヨリ其他ノ島嶼モ猛禽類ノ栖息多キユヘ出來ル丈之ヲ距ル海上ヨリ放鳩シ島嶼ニ近キトキハ集團放鳩ハ猛鳥ノ注目ヲ惹キ易キユヘ絶對ニ之ヲ禁シ一羽ツ、順次放鳩シ優秀ナル鳩ハ最後ニ放ツヲ

可。ス。鳩。ノ。産。卵。 孵化後四五ヶ月ニシテ發情シ六ヶ月目ニハ産卵ス一回ノ産卵ハ兩性ヲ配合シテヨリ十日乃至十四五日目ニ産卵シ一回ハ午後四時ヨリ五時ニ二回ハ翌々日ノ午後二時ヨリ三時ニ産卵シ二卵ヲ産ム譯ニテ卵ハ雌雄交互ニ抱擁シテ午前十時ヨリ午後四時迄雄鳩其他ハ雌鳩抱卵スルモノニシテ其交替ハ規則正シク行ハレズフシテ十七八日目ニ孵化ス二十日以上ニテ孵化セサルモノハ腐敗卵ト見ルヘシ

電氣集魚燈試驗

趣旨 本縣鱈漁業ニ盛ンニ行ハル、八田網、縫切八田網、揚線網ハ集魚燈ニヨリ夜間操業ヲ主トシ大部分石油燈ヲ用ヒ消費量多ク漁業經濟ヲ支配スルコト大ナルヲ以テ之ヲ電氣集魚燈ニ改ムルコトノ適否即チ實用及經濟上ノ關係ヲ明ニセントシ恰モ三重縣鳥羽町鳥羽電機製作所ノ好意ニヨリ同所製作ノ蓄電池式集魚燈ノ提供ヲ得且同所主任技師ノ派遣ヲ得タルヲ以テ十一年六月及同十一月ノ二期ニ試驗ヲ爲セリ

試驗方法及經過 大正十一年六月(第一回)ニ試驗セル蓄電池ハ一個ノ木箱ニ四個ノ電池ヲ收メ之ヲ二箱重ネトシ全部「シリーズ」ニ接續シ合計十六「ボルト」十「アンペヤー」トシ之ヲ鐵製ノ外覆箱ノ一區ニ收メ他ノ區ニ点滅器、加減器、「スイッチツチ」等ヲ取付ケタルモノニシテ之ヲ漁船内ニ据ヘ舷側ニ「ランプ釣」ヲ建テ之ニ蓄電池箱ヨリ「コード」ヲ導キ電燭ハ十六「ボルト」ノ低壓電球二百燭光ノ集魚燈ニ六、六倍ノ効力ヲ有スル反射鏡ヲ附シタルモノヲ用ヒ最大千三百二十燭光ノ光力ヲ發スルモノトセリ

右蓄電池二箱ノ重量ハ十八貫匁ニシテ外覆箱ヲ加ヘ總量二十四貫ニシテ石油集魚燈ハ油四斗入ニテ油量共二十六貫六斗入ニテ三十四貫ナルユヘ今回實驗ノモノハ石油四斗入ノモノト匹敵セリ

蓄電池ノ充電ハ鹿兒島市電氣軌道會社ニテ行ヒ試驗池揖宿郡山川港ニ運ヒ同港内外ニ漁業スル八田網組ニ交渉シ從來ノ石油集魚燈ヲ用フル船(大船ト稱ス)一艘ヲ電氣集魚燈船トシ他ノ一隻ヲ石油集魚燈(大坪式)船トシ若干ノ距離ヲ隔テ

ナ同時ニ點燈シ魚ノ集ルヲ待チ網船ニ接近移行シ網入スル如ク實際ノ漁事ヲ競争的ニ行ヒ比較セントシ十一年六月三十日夜前後三回試驗セルニ第一回ハ點燈二時間ニシテ二隻ノ火船ニヨリ獲タルモノ「タレクチ」鰯半籠量第二回ハ一時間ニシテ二籠第三回ハ二時間半ニシテ半籠量ヲ獲タルニ止マリ恰モ前日迄霖雨續ニテ海水混濁セルトキナリシタメカ薄漁ニシテ兩者ノ間ニ著ルシキ差ヲ見ルニ至ラサリシモ燈光ノ海水透明度ヲ調査シタル結果ハ左ノ如シ

場所	燈種	透明度觀測位置	透明度
山川灣内	電燈	電燈直下	七尋
	石油燈	電燈ヲ去ル七尋ノトコロ 一燈使用ノ直下 二燈併用ノ直下	八尋 五尋 六尋
同港外	電燈	側面ヲ無蓋トセルトキ直下 側面ヲ無蓋トシ三十度ノ角度ニ前面ニ反射シタル直下	八尋 八尋
	石油燈	二燈併用ノ直下	八尋

大正十一年十一月(第二回)ハ一箱電池四個入ノモノ四箱ヲ連結シ三十二V十Aトシ電燈周圍ノ反射鏡ハ前回ノ試驗ニテ照明圈狭小ナリシヲ以テ之ヲ廢シ普通笠狀ノモノトシ電球ハ千二百燭光ノモノヲ裝置セリ四月十八日二十一日ニ亘リ肝屬郡垂水村海瀉沖合ニテ第一回ト同シク八田網漁ニ石油燈ト比較試驗ヲナセルモ稍ヤ距離ヲ隔テタル八田網ニハ稍ヤ漁獲アリシモ試驗位置ニ於ケルモノハ電燈石油燈共ニ鰯ノ火付ナリ漁獲ノ比較スヘキ資料ヲ得サリシ透明度ノ調査ハ第一回ト同ジク電燈ノ方一尋餘勝シタリ

試驗成績 電燈石油燈ノ比較ハ前後二回共試驗位置ノ附近魚群ノ火付ナカリシヨリ漁獲ノ實績ニ於テ比較スヘキ資料ヲ得サリシヲ遺憾トスルモ海水透明度ノ調査ニ於テ常ニ一尋餘電燈ノ優レタルコトハ其範圍内ニ魚群アリトセバ必ズ夫レニ相當スルノ結果ヲ齎シタルベキハ想像スルニ難カラス唯第一回試驗ノ反射鏡ヲ附シタル電燈ハ其照明圈小ナルタメ若干火付シタル裸鰯等ノ狀況ニ見ルモ運動敏捷ニシテ稍モスレバ圈外ニ出ルコトアルタメ恐怖スルニ非ザルカ

ヲ思ハシムルカユヘ之ヲ今少シ大ナラシムカ又ハ第二回ノ如ク全ク改ムルカヲ可トスヘシ
 兩種燈ノ經濟關係ヲ見ルトキハ第一回使用ノ蓄電池電燈費ハ左ノ如ク

蓄電池（四個入）二箱

点滅器、加減器、電流引出口、可溶金屬取付具、防水用外覆箱

反射器

電球（マツダC二百燭光、十六ホルト）

コート 二十四尺

合計

其壽命ハ取扱ノ良否ニヨリ相違ヲ來スカユヘ毎日八時間ヅ、ノ使用トシ三種ニ分テ見ルトキハ

燈具	壽命數	粗暴ノ取扱	普通ノ取扱	良好ノ取扱
蓄電池	一二〇日		二四〇日	三六〇日
電球	三二〇時		四八〇時	九六〇時
其他用具	六〇〇日		一、二〇〇日	一、八〇〇日

之ヲ一日ノ所用經費ニ換算シ電力費ヲモ加算スルトキハ次ノ如ク

電球	蓄電池	其他用具	電力費	粗暴取扱	普通取扱	良好取扱
、一三三	、二〇〇 <small>円</small> 、二〇〇 <small>厘</small>	、三三〇	、三〇〇	、一〇一五	、一六五	、六八〇
、二五〇	、二〇〇	、三三〇	、三〇〇	、二四〇	、二五〇	、一一〇
、六八〇	、二〇〇	、三三〇	、三〇〇	、一〇一五	、一六五	、六八〇
六七	、二〇〇	、三三〇	、三〇〇	、一〇一五	、一六五	、一一〇
	、二〇〇	、三三〇	、三〇〇	、一〇一五	、一六五	、一一〇

前表電力費ハ一KW五錢トシ計算セルモノニシテ取扱ノ良否ニヨリ一日一圓七厘乃至二圓八十三錢ヲ要スルモノトナル之レ電池其他ノ燈具トモ消耗品ト看做シテノ計算ナルユヘ各器ハ其命數盡クルト共ニ新購入品ヲ得ル次第ナリ而シテ石油燈ハ阿久根地方ノ縫切八田綱ハ一夜八時間使用一燈ニ付平均虎印四罐此代金十八圓山川地方ノ八田綱ハ一燈平均赤金勝印二罐此代金五圓ニシテ其最大燭光ハ九百燭光内外ナルカユヘ電燈ニ比スルトキハ粗暴ノ取扱ヲ爲ス場合ノ一日ノ費用二圓八十三錢ニ對シ縫切八田綱用ノモノハ六倍余、八田綱用ノモノハ一倍八分ノ高價ヲ要スル計算ナリ第二回試験ノ電燈ハ千二百燭光ニシテ其燭光ノ大ナルタケ費額增高スルモ猶ホ石油燈ヨリ其經費小ナリ

試験資料

今回試験ニ際シ蓄電池ニ關シ調査シタル資料ヲ參考ノタメ左ニ附記ス

蓄電池 セルロイト製絶縁箱中ニ酸化鉛ヲ稀硫酸ニテ煉リタル「バスタ」ヲ詰メタル格子型鉛數枚ヲ一組トシ之ヲ一方ノ極トシ別ニ同様ニ作リタル鉛板叢ヲ他極トシテ挿入シ各板間ハ木板ニテ絶縁遮斷ス其一極ハ上部ニ他極ハ下部ニ在リテ充電ヲ爲スニハ鉛板叢ヲ被フ程度ニ稀硫酸ヲ注キ發電機ヨリ「コード」ニテ接続ス初回ノ充電ハ標準電流($\frac{1}{10}A$)ノ半分ニシテ十時間爲シ更ニ四五十時間連續過度ノ充電ヲ爲スヲ必要トシ第二回ハ十五時間以後ハ十時間ニテ爲スモノトス今回提供ノ蓄電池ハ初回充電ヲ爲シタルモノナルユヘ鹿兒島市内電氣軌道會社ニテ第二回同ノ充電ヲ爲セリ三馬力ノ發電機ニテ五A十五時間ヲ行ヒ稀硫酸ノ比重一、二五トナリ電池一個ノ電壓ハ二、一Vトセリ電壓ハ一、八Vヲ下ラサル様電流ノ補給ヲ爲スヲ要シ使用ヲ暫リ停止シタル後ノ充電ハ初充電ト同様過充電ヲナスヘキナリ

電池ノ蓄電力ハ假令使用セサルモ自然ニ少量ツ、放電シ殊ニ稀硫酸ニテ電池面ヲ汚シタルマ、放置スルトキハ之ヲ傳フテ逃去ス故ニ漁期外ニ於テモ毎月一回ツ、充電シ「バスタ」ノ晶化ヲ起サ、ル様セサルヘカラス

此蓄電池ハ二百燭光一日八八時間使用シ翌日充電スルトセハ約二百四十回ノ充放電ニテ使用ニ堪ヘサルモノトナル

カユヘ今一ケ年ノ實際出漁日數百二十日ト見ルトキハ蓄電池ノ壽命ハ二ケ年ニテ竭クルカユヘ二年毎ニ新調スルヲ要ス

蓄電池ノ充放電ハ極板ノ色ニヨリ知ルコトヲ得ヘシ

充電セル場合 (十)極ブラキツシユブラウレ (一)極シルバー、ホワイト

放電セル場合 同 ブラウン 同 グレー

比重計 蓄電池ニ注加スル稀硫酸ヲ製スル際濃度ヲ測リ又蓄電池ノ充電ノ不完ヲ檢スルタメ電池内稀硫酸ノ濃度ヲ計ルモノニシテ度盛リハ一、一〇ヨリ一、三〇マテノモノニテ可ナリ

稀硫酸 化學用純硫酸ト蒸溜水又ハ雨水ヲ用ヒ鹽分含有ノモノハ絶對ニ之ヲ避リ稀硫酸ノ初メノ比重ハ一、一五ナルユヘ水五ccニ硫酸一ccヲ加ヘテ作り初充電終リタルトキノ比重カ一、二五トナル様ニナス

硫酸ハ夫レ自身電解シ居ルノミナラス電流ヲ通スルトキハ「イラン」ニ單位トナリ兩極ノ「バスタ」ニ烈シキ化學的變北ヲ與フルニ拘ハラス其量ハ殆ント増減ヲ生セサルモ水ハ蒸發スルヲ以テ電池内硫酸ノ濃度ハ漸次濃厚ニ傾クガユヘ時々比重ヲ檢シ水ヲ補足シ比重一、二五ノ範圍ニ止ムヘシ

電動機 「モーター」ハ普通交流電氣ヲ通シ廻轉スルモノニシテ之ヲ發電機ニ傳ヘ發電セシム充電所ニ於テハ「ゼネレーター」ト共ニ主要部ヲ爲ス電氣ノ供給ナキ地方ニテハ「モーター」ニ代フルニ石油發動機等ノ回轉ヲ發電機ニ傳ヘ發電ス今回實驗セル二百燭光八時間点燈用ノ充電ヲナサンニハ電動機ハ一台五百圓位ノモノニテ可ナリ石油發動機ヲ用フル場合ハ一馬力ノモノニテ十二時間ニ蓄電池二箱(電池八個)ヲ充電スルニ足ル

發動機 「ゼネレーター」ハ「モーター」ト共ニ充電所ノ主要機ニシテ直流式ヲ必要トス
「コード」被覆導線ニシテ外部ヨリ交流電氣ヲ「モーター」ニ導キ「ゼネレーター」ヨリ蓄電池又ハ抵抗器、電壓計、電流計等ニ接續スルニ用フ

「アムメーター」電流カ導線中ヲ一分間幾何ツ、通過スルヤヲ測定スル器具ニシテ可動線輪型ト可動鉄心型ノ二種

アリ普通前者ヲ便トス

「ヴォルトメーター」電壓測定器ニシテ蓄電池ノ使用限度ヲ検査ス檢極低ハ直流線ノ極ヲ判定スルニ用ヒ之ヲ水ニ浸シ極ニ接スルトキ陰極線ハ赤色ヲ呈ス

充電室 ハ面積一坪位ニテ足リ「モーター」ト「ゼネレーター」ヲ接續スルトキハ尙ホ面積ヲ縮ムルコトヲ得ヘシ
充電室ハ海岸ニ棧橋ノ如キヲ突出シ其端ニ設ケ電柱ヨリ導線ヲ室内「モーター」ニ接續シ「ゼネレーター」ヨリ出ル導線ヲ棧橋下ニ集マル漁船内ノ電池ニ接續シ數個同時ニ充電スル如クセハ便ナルヘシ

充電室ニハ前記セル電動機、發動機、配電盤ヲ裝置シ價格ハ電動機四百二十圓發動機三百五十圓配電盤百十五圓位ヲ要ス

電氣主任技術者 電氣取締規則ニヨレハ六V以上ノ電壓ヲ使用スル場合電氣主任技術免狀所有者ヲ備フルカ四時間以内ニ到達シ得ル所ニアル技術者ヲシテ責任者タラシメサルヘカラス之ハ充電所ヲ設クル場合ニハ必要ナルモ充電シタル蓄電池ヲ使用スルノミナルトキハ此必要ナシ

抵抗器 電流ノ通過量ヲ加減スルモノニシテ普通炭素抵抗器又ハ多數ノ「ランプ」ヲ備ヘタル抵抗器ヲ用フ

「マツタラレフ」 集魚燈用トシテ大形ニ造リタル窒素瓦斯ヲ封入シタル低壓電球ヲ使用ス十六V二百燭光ノモノハ長六寸内部電線ハ「タングステン」線ヲ「スピラル」ニ卷キ「タングス」線徑ノハ三厘ニテ普通電球ノ約五百倍ノ大サナルユヘ線ノ取付部分ノ離レサル限斷線スルコトナカルヘシ燈ノ生命ハ約九百六十時間ノ使用シ堪フ

反射鏡 電光ヲ反射鏡ニヨリ有用範圍ニ集中セシメタルモノニシテ外部ヲ「アルミラニウム」製トシ内部ニ鏡ヲ附シ最大六、六倍トナルカニヘ二百燭光ヲシテ千三百二十燭光タラシムルヲ得

燭光加減器 蓄電池ヲ入レタル箱ニ抵抗器ヲ備ヘ「アレバヤー」ヲ把手ノ回轉ニテ減光増光スル用クセリ

点滅器 電燈ヲ点滅スルモノニシテ回轉式ノモノヲ用ヒタリ

ヒューズング、メタル取付器 危險ヲ生スル場合燒切レ電路ヲ斷ツモノヲ取付ク

蓄電池外覆箱 鐵製コールター塗セル長方体ニシテ二區ニ別レ一區ハ蓄電池ニ函ヲ重ネ他ノ區ハ点滅器加滅器「ス
ウイツチ」等ヲ取付ケ外部ヨリノ海水ノ浸入其他電池ノ被害ヲ防クモノトス